倉山目指して人見る間に売り 服の水兵が 形の水兵が およぼ口して吐 るごと石の殴 り水のしぶき り水のしぶき り水のしぶき り水のしぶき り水のしぶき り水のしぶき	れ落ちては高舞へる夏の蝶やよい	宿の土間近道と磯の蟹 智恵子	七年六月一二日	群の 高 牧 に た つ 雲 の 峰 やよい	みの島模糊としてさみだるる 菜 々	一七年六月一三日	虫や一人のたつきにも慣れて はく 子	の灼けて小銭の散らばりぬ なつき	草やサーカスの象出番待ち ぽんこ	一七年六月一四日	宝の社寺秘して山滴れる せいじ	山のみどり映して池鏡 菜々	七年六月一五日	ニ 講座 受けて蛍の観賞会 こすもす	る夜の玻璃戸ノックす火取虫 宏 虎 二	たるや待ち人を待つ橋の上うつぎ	あぐる祈願の小石青葉闇なつき	風がカーテンめくりしてをりぬ せい じ	
						毎日句会みのる選・二〇一七年六月一八日		蔵尊みそなはす蝌蚪の	ネ抜く音に飛び跳ね猫覚む	に斜め立ちもす更	水小さき水車を回しを	水のしぶきやまざる庭涼	ごと石の隙間へ瑠璃蜥	ぼ口して吐き出せる枇杷の	月一	の水兵がゆく煉瓦	る間に売り切れ産直夏野	山目指してくぐる茅の輪か	